

個別報告およびパネル分科会の採択結果のお知らせ

国際法学会 研究企画委員会

国際法学会 2025 年度研究大会における個別報告とパネル分科会の公募を行いました。研究企画委員会により選任されたレフェリーによる審査の結果、それぞれ下記の応募が採択されましたので、お知らせ致します。

【個別報告】

氏名	所属・肩書	題目
大辻航暉	日本大学大学院法学研究科・大学院生(博士後期課程)	「陸は海を支配する」原則と海面上昇適応策の交錯: 沿岸国管轄権にとっての意義
開出雄介	北海道大学大学院公共政策学連携研究部・准教授	外交的保護の構造転換: 国家責任法論の再構成のために
菅野直之	日本大学・助教	19世紀海賊行為論の歴史的文脈と「私的目的」要件
佐々木絃	同志社大学大学院・博士後期課程	戦後賠償における被害者救済と破壊的な金銭賠償の相剋
新谷里美	東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻・助教	欧州人権裁判所による財産権保障規定への比例性テストの適用
福井康人	日本原子力研究開発機構・任期付研究員	国連サイバー犯罪条約: 日本による締結に向けて

【パネル分科会】

「地域漁業管理機関による生物資源保存措置の発展と実施」

企画責任者:瀬田真(早稲田大学アジア太平洋研究科・准教授)

座長:鶴田順(明治学院大学法学部・准教授)

氏名	所属・肩書	題目
來田真衣子	大阪経済法科大学国際学部・准教授	地域漁業管理機関における漁獲証明制度の発展
瀬田真	早稲田大学アジア太平洋研究科・准教授	地域漁業管理機関による IUU 漁船リスト化の展開
猪又秀夫	東京海洋大学学術研究院・教授	地域漁業管理機関の法制度的発展: 南太平洋地域漁業管理機関の事例から

「ジェノサイドと国際司法裁判所」

企画責任者・座長:玉田大(京都大学大学院法学研究科・教授)

氏名	所属・肩書	題目
竹村仁美	一橋大学大学院法学研究科・教授	ジェノサイドをめぐる国家責任と個人の責任の二重性
稻角光恵	金沢大学・教授	ジェノサイド事件の取扱いと国際司法裁判所と国際刑事裁判機関の相互作用
萬歳寛之	早稲田大学法学学術院・教授	当事国間対世的義務の違反をめぐる紛争の二国間性:ジェノサイド条約違反を素材として
大下隼	駿河台大学法学部・非常勤講師	輸出管理によるジェノサイド防止義務の履行:イスラエルへの軍事物資供与をめぐる訴訟を素材として
長有紀枝	立教大学大学院社会デザイン研究科・教授	訴訟形態の変遷からみるジェノサイド罪の政治利用とICJ

「日本における国際法教育のあゆみ:共省、そして協働へ」

企画責任者:根岸陽太(西南学院大学法学部国際関係法学科・教授)

座長:小坂田裕子(中央大学大学院法務研究科・教授)

氏名	所属・肩書	題目
小栗寛史	岡山大学学術研究院社会文化科学学域・准教授	日本の国際法教育の軌跡:高等教育制度の発展と歴史的文脈に即して
二杉健斗	大阪大学大学院国際公共政策研究科・准教授	日本の国際法教育の現在地:教育素材の実証分析を通じて
根岸陽太	西南学院大学法学部国際関係法学科・教授	学びあいとしての国際法教育:学生と教員の間主観性
平野実晴	神戸大学大学院法学研究科 法学部・准教授	場づくりとしての国際法教育

※ 所属・肩書はすべて応募時のもの

以上